辛いときには手を取り合おう

「福岡市医報」に三池闘争の手記

三池の火を守る魚住さん

三池の火はいまもなお全国各地に燃えつづけている。働らく仲間だけにとどまらず、三池闘争の本当の姿を知る人たちによって口から口に伝えられ、火を消さない活動が根強くつづけられている。つぎに紹介する一文は、福岡市在住の魚住さんという医師が「福岡市医報」の新年号に「つらいときには手をとり合おう」という一文をのせられたものだ。魚住医師はかつて医療班としてホッパーで活動された方だが、このようにいろんな機会をとらえられて三池の火をつよくつよく燃えつづけられている。すこし長くなるが全文を掲載した。

福岡市医報に手記

昭和三十五年七月十七日、大牟田三池ホッパー前の「新安保粉砕・不当処分反対・三池を守る十万人大集会」の医療班で私は働いていた。

一開業医の私が、どうしてそこにおつたか？　そこには日本の独立と平和を守る労働組合の活動家が、生産阻害者の名のもとに、首を切られようとしていたからだ。

「新安保条約・日米軍事同盟強化・産業合理化の線に沿つた日本の動きにつれて、非近代的な日本の資本家は、全く目的な合理化すなわち労働者の首切りをもつてこたえた。

三井資本は三池労組に集中攻撃を加え、第二次、第三次の首切りを容易ならしめるために、組合活動家三〇〇人をふくむ二、一〇〇名の指名解雇を要求してきた。組合員を、組合活動の理由で首切ることは、労働法においても明らかに不当労働行為である。

スト破りは破廉恥罪

ストライキとロック・アウトの場合労働者は働かない。資本家は賃金を支払わない。労働者は、自分たちは働かないが、自分達以外の者が働らくことをも禁止する。日本のように失業者の多い、また暴力団の多い国では、資本家が外部から働らく者をつれてくる可能性と暴力団のピケ破りは非常に多い。

ここに米国の話しがある。

ある死刑囚が死に臨んで言つた「自分は今まで強盗殺人、ありとあらゆる悪事はしてきたが、ピケ破りだけはまだしたことがない」

ピケ破りということが、労働運動ではいかに破廉恥なことであるかが、後進国日本では全く理解されていない。以上のような関係でストライキには必然的にピケットはつきものである。

なお、三池の場合はホッパーに集荷された石炭が、外部に搬出されて商品化されれば、労働者のストライキは無意味となるから、ホッパー前広場が争議の天王山といわれておつた。

救護班で活躍した医師たち　ホッパー

労資對決でなく労資対司

労働組合がストライキを宣言しストライキに突入した後、脱落者第二組合が労働法で正当な資格を有するや、および法による保護は受ける権利があるや否やの根本的問題を、裁判所が頬被りして、第二組合の就労権に問題をすり替えびせかけて大衆を迷わせる。

つぎに裁判所は仮処分をかんたんに出しすぎる。

三池の場合はホッパー前広場から第一組合を立退かせ、執行吏に保護を移し、会社に使わせるという仮処分は、結果において資本家をきわめて有利な立場におく。もともとストライキは、労資の一対一の争いであるはずだが、司法機関「裁判所」が仮処分を出すことによつて、労資の一対一の力関係に、労司の一対一の力が加わり、結果において労資司の一対二の力関係になる。

資本家に首切りの自由を与えた

大新聞は労働者が裁判所の決定に従がわず、法治国家にあるまじき態度をとる、と口をそろえて攻撃するが、仮処分が出た瞬間に資本家は法の名において、自分に有利な態勢をつくり出しているのである。

したがつて労働者が自分の権利を守ろうとすれば、幾でも応でも法に対立せねばならぬ立場に追込まれている。これが労資司の力関係である。

つぎにあつせん案のことであるが、あつせん案の形をとりながら白紙委任状に等しい仲裁案であつて、これを受け入れなければ激突後の一切の責任を組合が負わされているということは、実に冷酷非道の解決案といわなければならない。

結果において三池争議は資本家に首切りの自由を与えた。これは現在の段階において総資本の力が法の援助を得れば総労働に勝ることを意味すると考えざるを得ない。

得がたい連帯性の確立

この労働争議によつて労資双方に得られたものは何か？　資本家は首切りの自由を得ることがいかに大なる犠牲を要するかを思い知つたろうし、労働者は自分の首を守るためには、もつともつと団結を固くしなければならないことを痛感したであろう。それにもまして大なる収穫は、首切りを受けとめるための労働者の連帯性が確立したことであろう。

南は鹿児島より北は北海道にわたり、三池を守る会が日本全体にひろがつたことが最大の収穫であろう。

新年を迎え御挨拶申上げます。一九六〇年はまことにわが三池労組にとり、意義深い年だつた。闘争に明け闘争に暮れた年は、私の五十二年の生涯に二度目である。また、終止をつげた事態もよく似たケースで二度目である。

いうまでもなく大平洋戦争と結果は同じである。しかし私はいいたい。負けおしみではない決して三池は負けたのではないと。こんどのわれわれの心構えいかんで、あのたたかいが生きもするし死んでもしまう。いたずらに敵のマスコミにひつかかり、おどおどする必要がどこにあるか。

生活は苦しい。労働者としつて、根本問題をぼかしてしまうのはまことに遺憾である。

この結果、「第二組合で働らこうというのに、第一組合が実力でピケを張つて妨害するのはおかしいではないか」との俗論が大新聞に横行して、第一組合に非難を浴びせかけて大衆を迷わせる。

つぎに裁判所は仮処分をかんたんに出しすぎる。

三池の場合はホッパー前広場から第一組合を立退かせ、執行吏に保護を移し、会社に使わせるという仮処分は、結果において資本家をきわめて有利な立場におく。もともとストライキは、労資の一対一の争いであるはずだが、司法機関「裁判所」が仮処分を出すことによつて、労資の一対一の力関係に、労司の一対一の力が加わり、結果において労資司の一対二の力関係になる。

資本家に首切りの自由を与えた

大新聞は労働者が裁判所の決定に従がわず、法治国家にあるまじき態度をとる、と口をそろえて攻撃するが、仮処分が出た瞬間に資本家は法の名において、自分に有利な態勢をつくり出しているのである。

したがつて労働者が自分の権利を守ろうとすれば、幾でも応でも法に対立せねばならぬ立場に追込まれている。これが労資司の力関係である。

つぎにあつせん案のことであるが、あつせん案の形をとりながら白紙委任状に等しい仲裁案であつて、これを受け入れなければ激突後の一切の責任を組合が負わされているということは、実に冷酷非道の解決案といわなければならない。

結果において三池争議は資本家に首切りの自由を与えた。これは現在の段階において総資本の力が法の援助を得れば総労働に勝ることを意味すると考えざるを得ない。

得がたい連帯性の確立

この労働争議によつて労資双方に得られたものは何か？　資本家は首切りの自由を得ることがいかに大なる犠牲を要するかを思い知つたろうし、労働者は自分の首を守るためには、もつともつと団結を固くしなければならないことを痛感したであろう。それにもまして大なる収穫は、首切りを受けとめるための労働者の連帯性が確立したことであろう。

南は鹿児島より北は北海道にわたり、三池を守る会が日本全体にひろがつたことが最大の収穫であろう。

これが一番こたえるのだ。だが、終戦後の苦しみを思えば何ほどのことあやんや。ところが情なく思うことは、闘争終結後に第二組合へ脱落する人がいることであり、全国の仲間がいまもなお三池をじつと見守つておるが、この人たちに「三池は頼りにしていたがやつぱり駄目か」ということである。

しかし今一度考えようではないか。組合員が半分になつてもよいいま戦つている人は絶対に負けんという自信と信念をもつてこんど一人も脱落しないことだ。それには、執行部もさらに強力な信頼感を与えるようにして欲しい。職制の圧迫はとても強力である。何といつても金でものをいわせてくる日役と単価制とでは話にならないだが私は負けぬ。三川の組合員は強力だ。

あの輝やかしい昨年のたたかいは私の永久の想い出となろう。五十二年の生涯に不運といえば不運

正しく進めば恐れることはない

三川　安武　生

幸福と考えればまさに幸福である私はつねに正しい道を行きたい。酒も一合ぐらい煙草も日に五本ぐらいの身のかなつた程度で生活をする決意である。正しく進めば何をおそれることがあろう。だが、あくらつなデツチ上げはまつぴらだ。昔の封建時代に帰らぬようみんな用心しよう。全国の仲間の目は光つているのだ。まさにたたかいはこれからだ想い起こそう一九六〇年の輝やかしい一年の歴史を

一万二千トン出炭にも協力しよう。だがそれにあたいする賃金と体の保障を得るならばである。たたかいはたたかい、生産は生産だそういう意味で新年を祝福しようたくじければ三池の皆さん、あるいは拒否者の人にもすまないはげしい三池魂をもつて対処します。

悲しみ苦しみをのりこえたものこそ真の社会人ではないでしようか。

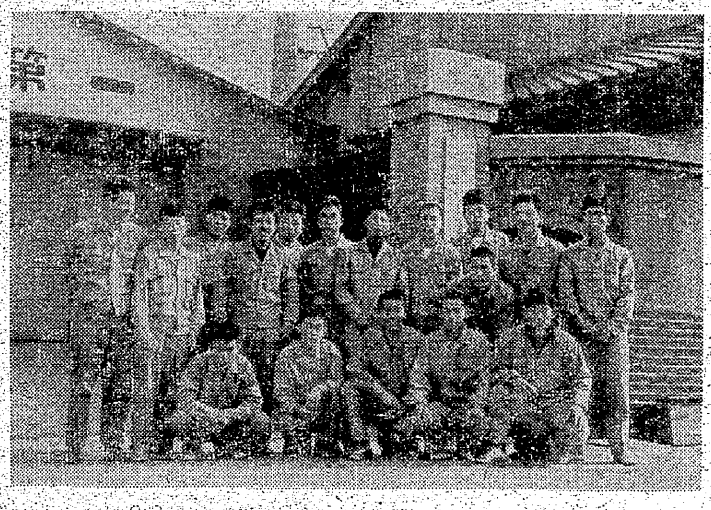
美しい同志愛をもつて、三池から行つた人たちだけでなく職場の人たちとも。目標は一つです毎日仕事ののちは学習を二時間つづけて、真の社会人になるために努力しています。職場の人たちから三池闘争についてきかれるときが一番うれしく、そのたびに丸い顔の目鏡に背が低くどつしりとした組合長の顔を思い出します。

三百二十数日におよぶ長期闘争をともにたたかつてきた三池の魂しいを受けつぎ、三池の子として頑強な忍耐と技術の錬磨に精進し、新らしい社会人として一生懸命頑張ります。

大牟田からは一人も当選しなかつたけれども、社会党、共産党がのびたことは、いかに政府、自民党の政策が国民にみとめられていないかということがわかります。

がんばろう突き上げる空にくろがねの男のこぶしがあるたたかいは今からです。現代の青年として世代をになう青年としてともに頑張りましよう。健康に気をつけてガンバツテ下さい。

三池出身計十六名に声をそろえて「ガンバレ」と、暇がないでしようがときどき僕たちが組合に一報下さい。



元気な顔を揃えた三池の十六名

三池の子頑張る

大永紙工業　永江君の元気な便り

三池の子弟たちが異郷の地に就職してはじめての正月を迎えた。労働者として正しくたたかい抜いてきた父母たちにもらす、さすがに労働者の土根性を受けついでみんな元気にはつらつと働らいている。

三池の子弟は元気よく立派に働らくという評判は、さきに就職した阪急バスで経験ずみだ。三池闘争をたたかつた父や母を誇りとして職場では明るく強く頑張つているが、去る十一月十二日大阪市の大永紙工業に就職が決定し大牟田を出発した十六名を代表して、永江清君から、つぎのような元気な便りが届いた。

× × ×

前略、毎日の闘争ご苦労さんです。

僕も一生懸命頑張つています。

仕事はつらい、しかし三池の子としてくじけてはいけない、まだまだ頑張つています。

あれから一年

斗いの年を迎ゆ

団結餅で迎えた正月

十二月十一日に一、二七七名にたいする「指名解雇」をおこなつてきた会社は、一挙に組織切り崩しをねらおうと十四日配置転換についての団交申入れをおこなつてきた。

十五日ひらかれた団交の席上会社は二、三二〇名のクビを切つたこととして一万トンベースを確保しようという、全く一方的な労働強化と職制支配の提案を出し押しつけにかかつたのである。

もちろん団交は決裂した。

そして拒否者は指名解雇の出た翌日からは毅然としかし激しい憤りで組合員、主婦の激励をうけながら繰込場まで就労をつづけた。

総評地点本部は指名解雇が出された三池にたいして第一次の大量オルグ団を投入、総数四一四名（炭労二二〇名、総評一九四名）が十四日来山、各地域分会にこの日から分宿して組合員と行動をともにしたのである。

また、十二月二十四日には総評としてはおそらく始めての全国大単産委員長、書記長ら三十余名が三池闘争支援激励のため来山し各支部繰入場や地域情宣、激励にあたつた。

組合活動家をクビ切る会社の悪質な組織ぶつつぶしは、このころになると日本全土だけでなく諸外国まで伝わり、年末から年始にかけて世界中からの激励電報がぞくぞくと組合に送られてきた。国際鉱山労働者連盟、炭鉱インター、フランス地下産業労連、中国煤鉱工会、イギリス鉱山労働組合をはじめイタリー、ソビエト、キプロス、インド、ベルギー、国際自由労連、ヒリツピン、ギニヤ、西独と世界の労働者たちから激励と支援が寄せられた。

国内の各組合、民主団体からも組織カンパとは別に、陣中見舞もあいつぎ、年末にはすでに二十七万円がおくられてきた。

正月をひかえ三池の労働者にせめて人並みの正月気分を味合わせようという仲間の暖かい心づくしはカンパ金とは別に、もちカンパがひろがり、組合本部には連日のように各地からもち、もち米がぞくぞくとおくりこまれ、われわれは仲間たちの深く暖かい連帯性に感激しつつクビ切り撤回をさらに心に誓い合つて、各地域分会ではおくつてきたもち米で「ねばり強い団結もちをつこう」といつせいに団結もちつきがおこなわれた。

こうして史上最大の闘争といわれる一九六〇年を迎えたのである。

× ×

一、三位の受賞

日本のうた声で三池

「うたごえはたたかいとともに」のスローガンどおり、三池闘争の中でうたごえが大きな活動をしめしたことは衆知の通りである。

昨年の最後を飾る「日本のうたごえ」では、たたかいの中でたくましく育てられた三池のうたごえが成果をみのらせ、三川うたごえ行動隊が一位、三位に宮浦合唱団、また大牟田センターが四位という鮮やかしい成果をあげた。

コンクール形式による合唱発表会には四十一団体が参加した。

一位　大和電機うたう仲間、三川うたごえ行動隊、中央合唱団

三位　宮浦合唱団　他三合唱団